

第2章

観光振興の基本的な考え方

- 1 観光振興の基本理念……………28
- 2 観光振興の基本方針……………30

第2章 観光振興の基本的な考え方

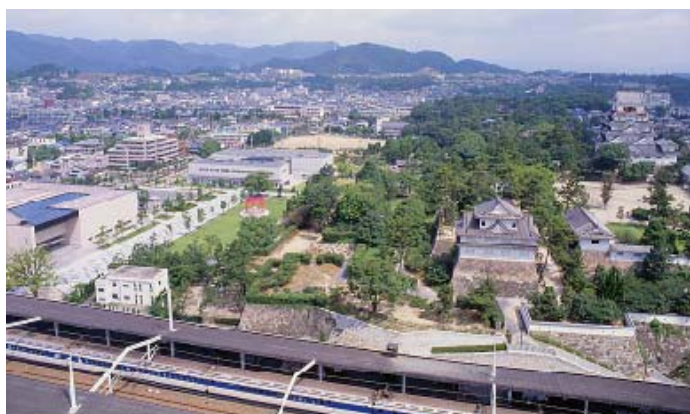
1 観光振興の基本理念

観光とは、「日常性を脱して心身を新たにする活動ないし状態」「よその土地の文化・習慣・風景などを見物して回ること」と言われています。また、観光の「観」は「みる」と同時に「示す（しめす）」の意味もあり、「地域の優れたところ（光）を来訪者がみる。あるいは来訪者に示す。」ことにあります。

福山市は、1934年（昭和9年）、全国で最初に指定された瀬戸内海国立公園を臨む交通の要所「瀬戸内の十字路」に位置しています。

戦後、間もない1947年（昭和22年）の人口は僅か6万人に満たない地方都市でしたが、その後の周辺自治体との合併や都市基盤の整備・充実を図るなかで、備後圏の拠点都市として大きく発展を遂げ、現在では人口約47万人の中国・四国地方屈指の中核都市であります。しかしながら、福山市の知名度は全国的には低く、『福山市はどこにあるの?』と尋ねられることもしばしばあります。

戦後、急激に発展してきた福山市は、市町村合併などにより、市民一人ひとりの「郷土を愛するところ」が必ずしも「福山を愛するところ」へ集約されていないことが弱さと考えられます。今ある福山の魅力や埋もれている地域資源をすべての市民とともに掘り起し、気づき、誇りに思い、自信をもって、観光の原点でもある「地域の優れたところ（光）」を全国へ発信することが重要です。「地域の優れたところ（光）」とは、歴史・文化や自然の豊かさ、美味しい海と山の幸、産業や都市の活力、協働の原点であるばらづくり、魅力的な祭りやイベントなどです。中でも最も大切に魅力ある観光資源は、地域の情緒・風情に支えられた市民一人ひとりの顔であり、おもてなしでなくてはなりません。それらの要素が重なり合って市内外からの観光誘客が図られ「観光交流のまち」が形成されます。



■ JR福山駅北側に隣接する福山城博物館と文化ゾーン■

市制施行 100 周年に向け，市民，観光関連事業者，観光関連団体，行政が「オール・イン」で観光まちづくりを推進していくために，観光振興の基本理念をつぎのとおりとします。

<観光における将来の都市イメージ>

ばらと潮風，歴史のかおる 観光交流のまち 福山

～だれもが住んでみたい，行ってみたいと思えるまち～

2 観光振興の基本方針

観光振興の基本方針をつぎのとおり設定し、基本理念と目標の達成を推進します。

基本方針Ⅰ：磨き高める

ばらと潮風，歴史のかおる 観光交流のまち 福山

基本方針Ⅱ：伝え広げる

ばらと潮風，歴史のかおる 観光交流のまち 福山

基本方針Ⅲ：にぎわい集う

ばらと潮風，歴史のかおる 観光交流のまち 福山

基本方針Ⅳ：もてなし癒す

ばらと潮風，歴史のかおる 観光交流のまち 福山

基本方針Ⅴ：創り造る

ばらと潮風，歴史のかおる 観光交流のまち 福山